

栃木県における北関東道の整備効果



木材加工の供給拠点整備の事例

北関東道沿線の真岡工業団地に、首都圏の住宅需要を支える木工タウンが整備される。加工のほか、丸太の集積・売買も1つの敷地で完結させることが可能。
⇒別々に散らばる機能を1カ所に集め、輸送や保管などにかかるコストや時間のロスを大幅に減らす。

背景: 1960年代の輸入自由化以降の安価な外国木材の流入により、国産木材の供給量が低下

流通コストの削減

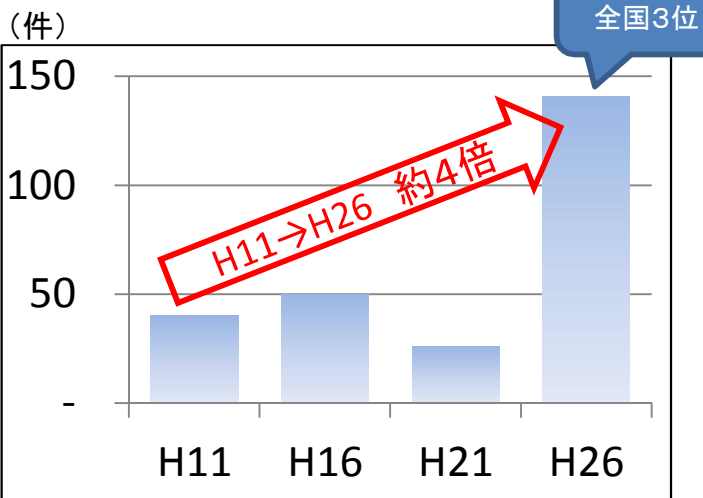
真岡工業団地に戸建て住宅メーカーに加工木材を供給する拠点の整備。

A社: 『製材』※①と『集成材』※②を製造
B社: A社が製造した『製材』と『集成材』を加工し『プレカット材』※③を製造
⇒また、山で切った原木を市場を通さず、直接工場に持っていくことにより更なる効率化

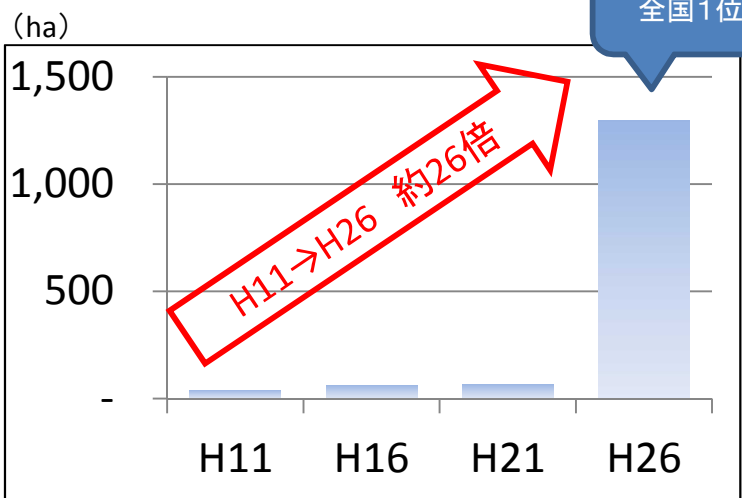
期待される効果

流通コストを効率化することにより、外国木材に負けない競争力強化

工場立地件数



工場敷地面積



出典: 経産省 工場立地動向調査(電気業含む)

出典: 日経メッセHPより

<https://messe.nikkei.co.jp/ac/news/125185.html>

※① 製材: 丸太から細長く切り出した材料

※② 集成材: 何本かの木を接着させて強度を高めた材料

※③ プレカット材: 建築現場へ運ぶ前に木材を住宅のパーツに加工したもの